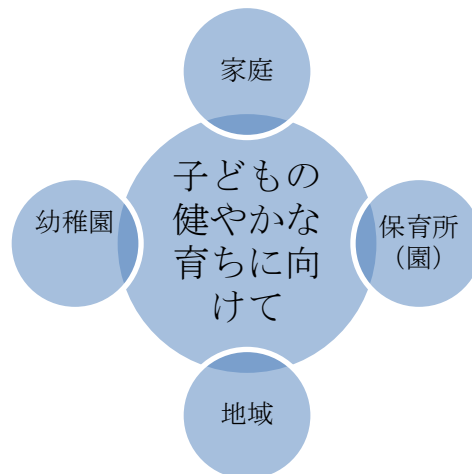
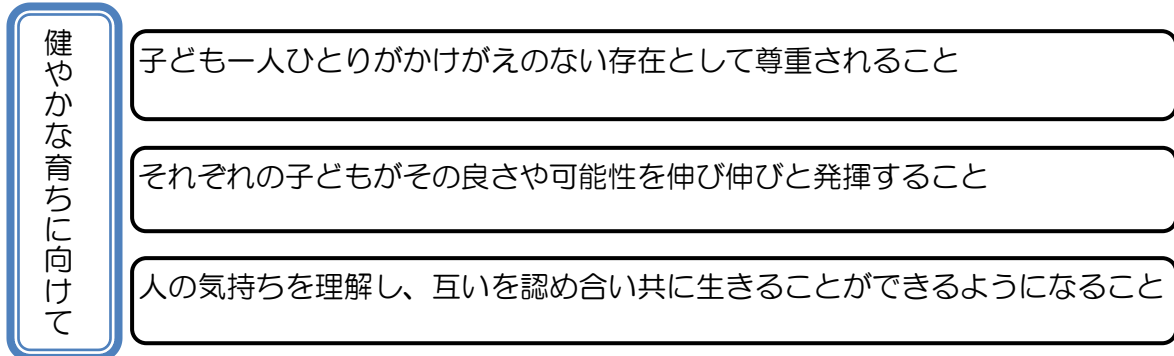


幼保一体化検討の背景と課題

1 幼保一体化検討の背景

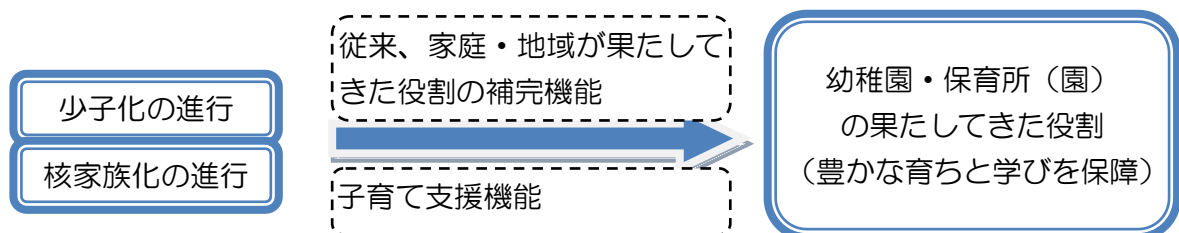
○ 乳幼児期の健やかな育ちに向けて

乳幼児期が、生涯にわたる人間形成の基礎を培う重要な時期であることを踏まえる。



◎乳幼児期の子どもの健やかな育ちに向けて、子どもの視点から、家庭、幼稚園、保育所（園）や地域のあり方を考えていく必要

○幼稚園・保育所（園）の役割



◎子どもたちに、豊かな「育ち」と「学び」を保障し、子育てを支援する場として幼稚園・保育所（園）の果たしてきた役割の大きさ

◎培われてきた幼児教育・保育の成果を、今後も提供、充実していくことが必要

○就学前児童を取り巻く現状

- ◎保育所（園）は待機児童発生、幼稚園は定員割れと、就学前施設における需要と供給のミスマッチが発生
- ◎保護者の就労の有無等に関わらない幼児教育・保育の提供の必要性
- ◎集団活動や異年齢交流の場、地域子育て支援の場としての幼稚園・保育所（園）の重要性

○草津市の設置状況

（平成24年5月1日現在）

| | 保育所（園） | 幼稚園 |
|-----|--------------|------------------------|
| 施設数 | 19（公立6、私立13） | 14（公立10、私立4） |
| 定員 | 2,390 | 1,825 |
| 在籍数 | 2,552 | 1,531 |
| 在籍率 | 106.8% | 83.9% |
| 対象 | 0歳児～5歳児 | 公立4歳児～5歳児 私立3歳児～5歳児 |

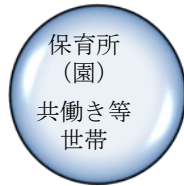
（参考）平成16年度

| | | |
|-----|--------|-------|
| 定員 | 1,960 | 1,790 |
| 在籍数 | 2,104 | 1,560 |
| 在籍率 | 107.3% | 87.2% |

○幼保一体化の検討の背景

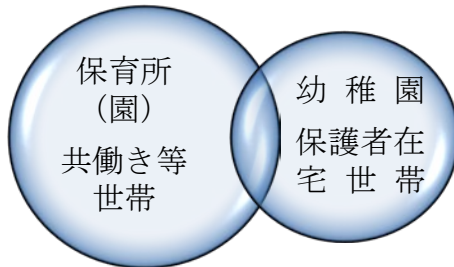
- ◎幼稚園・保育所（園）の歴史の中で培われてきた良さや成果を再確認し、相互に活かす必要性
- ◎双方の役割を担う形で、全ての子どもに質の高い幼児教育を提供し、保育を必要とする児童に豊かな保育の場を提供するために、子どもの視点からどのような幼保の体制が望ましいのか、幅広い視点から議論を積み上げていくことが必要

従来



共働き世帯（保育需要）の増加

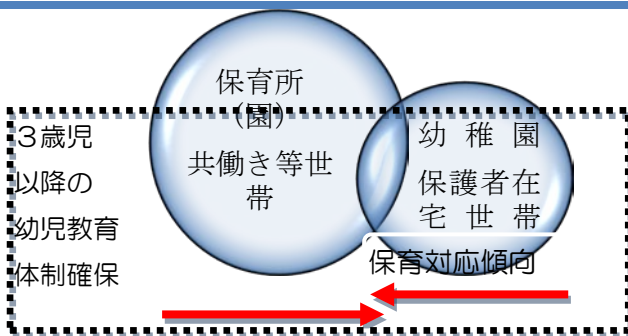
現在



- 就学前児童増・保育ニーズ増
- ◎保育所入所者の増加
- ◎幼稚園入所者数の減少
⇒幼保合計では定員内
- ◎幼稚園での保育ニーズ
(保育ニーズ対応の傾向、特に私立)

保育対応傾向

現在の草津市の現状から、今後予想される傾向



保育所での幼児教育体制の充実（処遇・研修・配置等）
就労の有無に関わらない受入れ

- いずれ就学前児童減・保育ニーズ増
- ◎保育所入所者の増加（いずれ減）
- ◎幼稚園入所者数のさらなる減少
⇒幼保合計では定員割れが進む
- ◎幼稚園での保育ニーズ対応の必要性の更なる高まり
- ◎幼稚園・保育所（園）での3歳児以降の幼児教育体制の確保
- ◎地域子育て支援の必要性の更なる高まり

2 幼保一体化検討の課題

- ◎幼保一体化となった場合、認定こども園として運営するにあたり、こどもの生活や保護者の対応、職員体制、管理運営面、教育・保育内容、子育て支援のあり方等の課題が存在
- ◎課題項目の整理を行った上で、実際の先行事例等の収集や創意工夫を行いながら、地域や各施設の状況に応じ、一つひとつ課題解決を図っていく必要

(参考1)「こどもの生活や保護者の対応」で課題と想定される項目

- ・保護者の参加する行事への対応方法
(長時部・短時部での時間の違い、PTA活動(活動時間・役員選出)、運動会等の開催日・時間)
- ・給食の実施体制やアレルギー除去食への対応について
- ・長時部・短時部での先生(担任)の配置はどうなるのか
- ・長期休暇(夏休み等)のあり方
- ・短時部の子どもが帰った後の長時部の子どもの過ごし方
- ・長時部・短時部の保育料設定
- ・保育人数が増えた場合の保育環境の確保
- ・保護者同士のコミュニケーションが困難ではないか
- ・早朝、延長、土曜保育の設定
- ・幼児教育の充実だけでなく、保育の充実も必要

(参考2) 認定こども園での質疑事項の実例

| 項目 | 質問 |
|-------------------|---|
| 子どもの生活 について | こども園というシステムの中で保育をする上で、特に配慮していることはありますか。 |
| | 乳児部から幼児部への移行時に、どのような配慮をしていますか。 |
| | コアタイムから長時間保育へという1日の流れで、配慮していることは何ですか。 |
| | 長時間での保育は、どんな工夫をしていますか。 |
| | コアタイムで降園する子どもがいることで、長時間保育の子どもが不安になることはありませんか。 |
| | 休業日等はどのようになっていますか。また、長期休業中の保育は、どんな工夫をしていますか。 |
| | なぜ、1学期・2学期というように学期ごとに分かれていますか。 |
| | 課外クラブでは何をどのように行っていますか。 |
| 職員・教員に ついて | こども園では、幼稚園教員を保育士の両方の資格のある職員が採用されているのですか。 |
| | 教員が2歳児担任をすることのメリットは何ですか。課題はありませんか。 |
| | なぜ、幼児部ではコアタイムと長時間保育とで担当を分けているのですか。 |
| | 幼稚園や保育園の違いから、教員や保育士等が戸惑うことはありませんか。 |
| | 職員間の共通理解をどのように図っていますか。 |
| 保護者、地域、 制度について | 保護者への働きかけで、特に配慮している点はどのようなことですか。 |
| | 乳児部から幼児部になるときに、保護者に対して特に配慮していることはありますか。 |
| | 多様なニーズのある幼児部での、保護者会や保育参観など、どのように工夫していますか。 |
| | 地域との連携は、どのようにしていますか。 |
| | 保育料について説明してください。 |
| | 給食はどこで作っていますか。アレルギーの対応はどのようになっていますか。 |

(東京都千代田区立いずみこども園／著(2006年)『幼保一元化いずみこども園3年間の実践』明治図書出版から)